

桜ヶ丘だより

鹿児島大学病院広報誌

Kagoshima University Hospital PR News



特集 小児科・産科、婦人科のご紹介

看護部トピックス

B棟6階病棟 「薩摩おごじょ」の身体はB棟6階が守る！
「生命誕生から女性のすべてのライフステージに寄り添います」

歯科診療部門トピックス

矯正歯科「心身の健康は良いかみ合わせときれいな歯並びから！」

臨床技術部トピックス

臨床工学部門「病原体を短時間で殺菌 環境消毒ロボ稼働中！」

59
2022.6

小児科

Pediatrics



「for the children, society and ourselves」を合言葉に 病気と闘う子どもと家族を支える医療・研究・教育を力強く推進

—若年層のCOVID-19感染が目立っています。小児医療をリードする医局として、現状をどのように受け止めておられますか？

おおむね子どもは感染しても軽症で済むと言われている一方、例えば免疫不全の子や医療的ケア児がCOVID-19を発症すると重症化する、あるいはウイルスを容易に排除できない、などさまざまな問題が生じます。日々難病と闘う子どもたちを診療している大学病院として、患者さん、スタッフを含め、院内にウイルスを持ち込む隙を作らないよう、さまざまな感染防止策を立てて対応し、併せて医療従事者への啓発も継続して行っています。入院治療中の子どもたちの外出や退院に関しても当初は厳しく制限せざるを得ませんでした。現在は感染防止対策が浸透してきた状況に鑑

み、できるだけご家族と一緒に過ごすことができるよう、外出・退院についての制限を緩和しています。

—地域医療との連携・貢献についてのお考えを教えてください。

当科は、病床を有する二次病院からの紹介が圧倒的に多いのが現状です。白血病や膠原病などの難病については、クリニックの先生方からダイレクトにご紹介いただくケースもありますが、例えばアレルギーや低身長などの要因となる内分泌疾患についても幅広く診ていますので、気軽にご相談いただきたいと思います。また当科では現在、小児科のCOVID-19対策として医療機関や宿泊施設からの夜間電話相談にも対応しています。

—診療や教育・研究のほか釣り部や野球部などの部活動も医局の活力源のようですね。

モットーとして「for the children, society and ourselves」を掲げています。日々の仕事の中で、迷う局面に出会うことも多々あります。その時、自分たちのやっていることが子どもたちのためになっているかどうか、プレることのないよう、常に問い続けて診療にあたっています。それから社会のためになっているか、そして、自分達の生活や人生が充実していないと良い医療が提供できないということで「ourselves」自分自身を大切にすることもうたっています。教育や研究、趣味などを自分に投資することは、物事を前向きに考え、物事の「bright side」を見る力につながるという思いからです。

(聞き手：鹿児島大学病院 広報担当
副病院長 宇都 由美子特任教授)



西川 准教授

岡本 教授

Profile

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科
発生発達成育学講座 小児科学分野

岡本 康裕 教授

(小児科 部門科長)

- 1990年 徳島大学医学部 卒業
- 1998年 博士(医学)取得
- 1999年 Department of Hematology – Oncology, St. Jude Children's Research Hospital, Clinical Fellow
- 2005年 鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 小児科 助手
- 2006年 同 講師
- 2015年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 発生発達成育学講座 小児科学分野 准教授
- 2021年 同 教授

- 資格
- 日本小児科学会 認定医、専門医、指導医
 - ECFMG certificate
 - 日本血液学会 専門医、指導医
 - 日本造血細胞移植学会 認定医
 - 日本小児血液・がん学会 専門医

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科
発生発達成育学講座 小児科学分野

西川 拓朗 准教授

- 2001年 山口大学医学部 卒業
- 2010年 博士(医学)取得
- 2010年 国立病院機構 九州がんセンター 小児科
- 2012年 鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 小児科 助教
- 2016年 鹿児島大学病院 小児科 講師
- 2022年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 発生発達成育学講座 小児科学分野 准教授

- 資格
- 日本小児科学会 専門医、指導医
 - 日本血液学会 専門医、指導医
 - 日本造血細胞移植学会 認定医
 - 日本小児血液がん学会 専門医、指導医



*For the children,
society and ourselves*



崎濱 助教

小林 教授

Profile

鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科
発生発達成育学講座 生殖病態生理学分野

小林 裕明 教授

(産科、婦人科 部門科長、特命副病院長、婦人科がん
先端医療学講座教授、地域医療連携センター長、遺伝
カウンセリング室長)

- 1985年 九州大学医学部 卒業
- 1987年 九州大学大学院医学系研究科 修了
- 1991年 カナダ・トロント大学がん研究部門 留学
- 2009年 九州大学医学部産科婦人科 准教授
- 2014年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 発生発達成育学講座 生殖病態生理学分野 准教授
- 2016年 同 教授、遺伝カウンセリング室長
- 2020年 婦人科がん先端医療学講座 教授、鹿児島大学病院副病院長(特命)、周産母子センター長、地域医療連携センター長

- 資格
- 日本産科婦人科学会 代議員、専門医、指導医
 - 日本婦人科腫瘍学会 常務理事、専門医、指導医
 - 日本婦人科ロボット手術学会 理事長、指導医
 - 日本ロボット外科学会 理事、学会認定術者
 - アジア婦人科ロボット手術学会 理事
 - 日本臨床細胞学会 評議員、専門医、指導医
 - 日本産婦人科手術学会 常務理事
 - 日本産科婦人科内視鏡学会 理事
 - 日本女性医学学会 理事、専門医、指導医

鹿児島大学病院 周産母子センター

崎濱 ミカ 助教

- 2002年 福井医科大学医学部 卒業
- 2002年 福井医科大学医学部附属病院 産婦人科
- 2010年 鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 産科、婦人科 医員
- 2019年 鹿児島大学病院 周産母子センター 助教

- 資格
- 日本産科婦人科学会 専門医
 - 日本女性医学学会 専門医



患者優先
不惜身命

産科、婦人科

Obstetrics and Gynecology



安心して子どもを産み育てることのできる医療環境を整え、 女性のライフステージの「Quality of life」を支える

－新型コロナウイルス感染症が県内の 出産現場や産科医療に与えた影 響は？

COVID-19自体は母体を通じて胎児に影響を及ぼすことはありませんが、発熱などの症状があると、お産に悪影響を与えることもあります。出産と同時に赤ちゃんを隔離せざるを得ず、ご家族の立ち会いや面会も制限されます。コロナ禍により、多くの女性が孤独な闘いを強いられました。鹿児島県においても“産み控え”の傾向が見られ、加えて他県からの里帰り出産が制限されたこともあり、2020年度の県内の出生者数は前年度に比べ1,000人以上も減少しました。県や各自治体も出産・子育て支援策に力を入れています。今年4月にスタートした不妊治療の保険適用も一つの契

機として、県内の出産件数が増えていくことを願っています。

－貴科の特徴を教えてください。

産科、婦人科には周産期、腫瘍、不妊内分泌、女性ヘルスケアという四つの領域がありますが、現在、当科にはこの全ての領域のスペシャリストがそろい、高度な産科医療のほか不妊症、生理の異常、更年期障害、良悪性腫瘍など、女性の幅広い年代をカバーする医療を提供し、教育・研究も推進しています。特に婦人科がんの低侵襲手術、妊孕性温存手術(術後の妊娠・出産を可能とする手術)に積極的に取り組んでおり、婦人科の高難易度手術に指定される全ての手術を行うことができる国内有数の施設です。各領域の有機的な連携により、国内でも傑出した手術技術に基づいた

産科婦人科医療を提供しています。とりわけロボット手術に関しては、国内をリードし、多くの医師が見学・研修に訪れています。

－地域医療連携についてのお考えを 教えてください。

周産期医療に関しては、開業医の先生方と二次および三次(当院と鹿児島市立病院)の連携・協力関係が構築されていますが、がんや不妊内分泌、女性ヘルスケアなどの領域については、大学への紹介を希望される医療機関が多い現状があります。相互に緊密に連携していますので、県内の女性の皆さんは少しでも不調を感じたら早期に受診することをお勧めします。

(聞き手：鹿児島大学病院 広報担当
副病院長 宇都 由美子特任教授)



Topics



「薩摩おごじょ」の身体はB棟6階が守る！ 「生命誕生から女性のすべてのライフステージに寄り添います」

産科と婦人科の混合病棟である B棟6階は、かわいい赤ちゃんの泣き声の聞こえる女性病棟です。病棟では、妊婦さんが超緊急の帝王切開を余儀なくされることがありますが、手術室までの距離が遠いことから、2021年4月より、病棟の分娩室で緊急の帝王切開ができるようになりました。手術室看護師や麻酔科医師が全力で駆けつけ、小児科医師や NICU 看護師が赤ちゃんの蘇生を行います。B棟6階の医師・看護師・助産師は、手術に使用する器械や道具、手術の外回り看護を新たに学び、緊急時のリーダーシップを取ることができるようになりました。年に数回しかない、しかし、その数回の超緊急事態に対応できるよう毎週シミュレーションを欠かさず行い、これまでに3件の超緊急分娩室帝王切開を成功させました。多くの職種・部署が協働し、これまで培ったチームワークを活かした結果が成功に繋がったもので、生命誕生の喜びを分かち合いたいと思います。

また、これまでに新型コロナウイルスの陽性妊婦さんを12人受け入れました。感染病棟での受け入

れ時は、B棟2階スタッフと一緒に産科医師とB棟6階の助産師・看護師が対応します。出産後、お母さんの乳房ケアや精神的なケアは、助産師が毎日勤務後に感染病棟に出向き、直接ふれあい、対応しています。隔離解除になると、離ればなれだったお母さんと赤ちゃんは B棟6階で母児同室を行います。初めて我が子を抱っこするお母さんの満面の笑顔には毎回感動させられます。

そのほか、病棟には婦人科の病気や悪性腫瘍のため、手術や化学療法、放射線療法などの治療を受ける患者さんも入院されています。痛みや苦痛をいかに軽減するかはもちろんですが、家で待つ家族への思いや退院後の生活について、そしてこれからの人生について、思い悩む患者さんに寄り添い、専門チームを交えながら一人一人の患者さんの生活基盤を整え、より良い日常生活を送れるよう支援を行っています。

これからも「すべての女性に優しい」病棟を目指して頑張ります！



分娩室での帝王切開の様子



B棟6階のスタッフ



歯科診療部門

Dental Division's Activity

口腔の健康から全身の健康を守る

心身の健康は良いかみ合わせときれいな歯並びから！ 矯正歯科で悪い歯並びとあごの大きさやズレを治しませんか？

歯並びとあごの大きさやズレが気になる方は、是非ご相談下さい。あごの大きさや形に異常がある場合、保険で矯正治療が受けられることがあります。また、針金などの装置が見えるのが嫌な方は、表から見えない装置もあります。きれいな歯並びは自信や自尊心を育みます。悪い歯並びだと虫歯や歯周病に、あごが小さいと睡眠時無呼吸に、あごが大きいと胃食道逆流症にかかりやすくなる場合があります。矯正治療は心身の健康に役立ちますので、歯並びなどでお悩みの方は早めに矯正歯科を受診して下さい。私たちが責任を持って、将来のことを考えた安全安心の矯正歯科治療を提供致します。



ガタガタの歯並びが矯正歯科治療によって、きれいな歯並びへと改善されました (Orthod Waves. 71(2): 70-77より引用)

News

鹿児島大学病院から沖縄県へ コロナ対応エキスパート看護師を派遣

鹿児島大学病院では、文部科学省からの派遣要請に基づき、医療体制がひっ迫している沖縄県へ、看護師1名を派遣しました。

派遣されたのは、高見利恵看護師長で、1月26日から2月8日までの2週間、沖縄市の医療機関に勤務しました。

2月14日に帰任の報告があり、坂本病院長から「危険を顧みず、沖縄県のために尽力いただき、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。」と労いの言葉が述べられ、高見看護師長からは「患者さんの心に寄り添いながら、少しでも協力したいとの思いがあり、初めて沖縄県の医療機関に勤務しました。派遣先の病院では、良好なチームワークが構築され、コミュニケーションをとりながら業務に従事することができ、今回の貴重な経験を今後の看護に生かしていきたいと思っております。」と力強い抱負が述べられました。



坂本病院長へ帰任報告を行う高見利恵看護師長



(左から)坂本病院長、高見看護師長、宮園看護部長
★写真撮影時のみ、マスクを外しました。



臨床技術部

Division of Clinical Technology

診療部門と連携し、支援を行う専門職種集団

病原体を短時間で殺菌 環境消毒ロボ稼働中！ 臨床工学部門「短時間でウイルスを除去する紫外線照射ロボットで環境整備」

当院では患者さんやご家族、スタッフの安全安心を守るため、環境消毒ロボット『ライトストライク』を導入しています。このロボットは、病室や手術室、検査室等に5～10分ほど紫外線を照射することで、様々なウイルス・細菌を除去することができます。従前より院内感染予防目的に手作業による徹底した清掃・消毒を行っており、更にICUなどでロボットによる環境消毒を追加しています。当院は鹿児島県唯一の特定機能病院として、職員一丸となって感染対策に努め、安心・安全・高度な医療の提供を通じて社会へ貢献します。



パルス方式キセノン紫外線 UV 照射ロボット
『ライトストライク』

News

(一財)親和会より患者用車椅子、 小児玩具一式が贈呈されました

一般財団法人 親和会(平原安昭理事長)より、車椅子9台と小児玩具一式(DVD16本)の寄附の申し出があり、3月28日に寄附受納式が行われました。

令和元年当時、外来受診者が多い日は車椅子が不足することがあり、患者さんや付添の方々に大変ご不便をおかけしていました。親和会より令和元年度に10台、2年度に10台、今年度9台の計29台を3年間で寄贈いただき、現在は車椅子不足が解消され、快適な利用環境に改善されました。また、小児病棟プレイルームに令和元年度は絵本、2年度は玩具、今年度はDVD等を寄贈いただき、入院中の小児患者さんに大変喜ばれています。

寄附受納式では、(一財)親和会の平原安昭理事長から坂本泰二病院長へ目録が手渡され、「医療の最前線で、日々懸命に新型コロナウイルスの治療・看護にご尽力されている医療従事者の方々に、敬意を表するとともに深く感謝いたします。患者さんやご家族の方々が安心して大学病院を利用できるよう、また、入院している子供たちに少しでも楽しい時間を過ごしていただけるよう、これからも病院環境のサービス提供に努めてまいります。」と挨拶がありました。

引き続き、坂本病院長から平原理事長へ、「本院の運営にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。ご厚情にお応えすることができるよう、引き続き健全な病院運営に努めてまいります。」と謝辞が述べられました。



(一財)親和会 平原理事長(写真右)から坂本病院長(写真左)へ目録を贈呈



(写真左から)山崎事務部長、宮園看護部長、坂本病院長、平原(一財)親和会理事長、島森(一財)親和会常務理事
★写真撮影時のみ、マスクを外しました。

表紙の写真

(上段写真中央) 発生発達成育学講座 小児科学分野
岡本康裕 教授
(下段写真中央) 発生発達成育学講座 生殖病態生理学分野
小林裕明 教授



鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより 59号

発行日 / 2022(令和4)年6月発行 発行 / 鹿児島大学病院広報委員会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6710 URL: http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/

